



居住地校交流だより



令和8年10月15日発行<前期号>

障害のある子どもたちと障害のない子どもたちが共に活動する機会を通して、互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶことができるように、国、県と共に交流及び共同学習を推進しています。

本校でも、児童生徒が自分の住んでいる地区の学校を訪問し、居住地校交流を行っています。前期は、小学部10名の児童と中学部3名の生徒が交流を行いました。前期に実施した交流の様子を紹介いたします。



南小学校5年生(体育)

「ボール渡し」や「風船バレー」などのレクリエーションを通して、楽しい雰囲気の中、交流をしました。

山瀬小学校4年生(体育)

「しっぽ取り」や「リレー」などの活動をしました。笑顔がたくさん見られた交流でした。

第一中学校2・3年生(特活)

ボッチャの活動をしました。ボールを投げた後、自然とハイタッチをし合う場面がありました。

北陽中学校1年生(美術)

新聞紙を使ってオブジェを制作しました。声を掛け合いながら、素敵な作品ができあがりました。

保護者の方の感想

久しぶりの再会でも楽しく交流ができ、帰る時は校門までお見送りまでしてくれて本人もうれしそうだったのが良かったです。

得意のボッチャで楽しめたようです。久しぶりに友達や先生に会うこともできたのがうれしかったです。

とても楽しく活動していました。活動内容も子供に合っており、終始笑顔でした。相手校の子ども達も常に声掛けをしてくれました。

お友達が迎えに来てくれて良かったです。特別扱いせず自然と一緒に制作活動に参加できて良かったです。

交流校の先生からの感想

子どもたちが作ったプレゼントを笑顔で手渡ししている場面が印象的でした。帰った後も名残惜しそうにしていました。

幼なじみである生徒同士で楽しそうに活動していたのが印象的でした。チーム名を一緒に決めるなど、和やかなムードでした。

大きな音や声が苦手ということを知り、子ども達は、応援の時など声の大きさを調整し、自分たちで考えて取り組んでいました。

昨年度に引き続きの交流で本校の生徒にとっても良い学びの機会になりました。自然とグループ活動に入ることができていました。

ゲストティーチャーについて



居住地校交流を行う前に、本校職員が交流校を訪問し、出前授業を行っています。

※写真：令和8年7月山瀬小学校（左）、8月桂城小学校（右）

ゲストティーチャーでは、比内支援学校について(支援学校にはどのような工夫があるのか、学習や行事の様子、交流する児童生徒の頑張っていること等)や仲良く交流するためのコツ(笑顔・ふわふわ言葉※等)について講話をします。また、友達を思いやって言葉を掛けられるように、簡単なゲームを通して話し方やふわふわ言葉で声を掛ける練習を行っています。

※ふわふわ言葉とは、誘う・励ます・ほめる・安心させる言葉等、相手の心をあたためる言葉です。